



2026年6月5日

各位

会社名 株式会社 デジタリフト
代表者名 代表取締役 百本 正博
(コード番号:9244 東証グロース)
問合せ先 上級執行役員 CFO 久保 聖
(TEL 03-6427-1866)

2026年9月期 第2四半期決算に関する質疑応答集

当社の2026年9月期第2四半期決算に関して、想定しておりました質問及び、これまで株主、投資家などの方々からいただいたお問い合わせや感想、当社からの回答をまとめましたので、以下の通りお知らせいたします。

なお、本開示は市場参加者にご理解を一層深めていただくために、当社が自主的に実施するものです。皆様のご理解を賜ることを目的として一部に内容・表現の加筆、修正を行っております。

Q1:通期予想に対する売上進捗率は、前期並みの40%に留まっていますが、社内計画との差異について教えてください。

A1:今期は、営業力強化、再現性向上施策として「リード獲得の仕組化と最適化」に取り組んでおり、年間予算は、下半期、特に第4Qに重み付けがなされております。尚、第2Q時点では売上面においても社内計画通りの進捗となっております。

Q2:クライアントポートフォリオの見直し、営業体制の強化について教えてください。

A2:収益性を重視した案件運営、デジタル広告の市場環境変化への対応及びAIの利活用による業務効率化を進めております。

Q3:営業利益が、前年同期の400万円から約1.2億円に大幅な増益となっております。この要因について教えてください。

A3:デジタリフト単体及び子会社の売上総利益が大きく伸びたことが要因となります。こちらは、前期から実施しております、収益性の高い事業領域への事業ポートフォリオの見直しをした結果、グループ全体の収益性の改善によるものになります。

Q4:株主優待制度について、今後も継続される見込みでしょうか。

A4:株主優待は、今後も継続します。当社では株価について非常に重要な経営課題と考えております。業績拡大は当然のことながら、株主優待を含め、銘柄魅力を高める施策は、常に検討しております。

Q5:5月18日に開示された 統合BIツール「LIFT Engine」について、デジタル広告運用における戦術策定から検証を一元管理するBIツールとのことですが、貴社の今後のビジネス、業績に与える影響について教えてください。

A5:
「テクノロジーで標準化し、人で価値を創る」という考えに基づいて、人にしか創れない価値に集中できる環境を実現し、クライアントとの対話と価値共創に集中できる体制を整備するため、本ツールを開発いたしました。

データの自動集計・レポート生成により業務工数を大幅に削減することによる運用コストの最適化、再現性の高い運用体制の構築及びテクノロジーを「人の代替」ではなく「人の価値の最大化の手段」と位置づけ、コンサルタントが人にしかできない価値に集中できる環境を提供します。AIドリブンなプロセス改善によって、業務効率改善を通じた収益性向上と、提案高度化による提供価値向上の両立を目指し、デジタリフトの成長基盤として進化させてまいります。

業績に与える影響については今後、公表すべき事項が生じた場合には速やかにお知らせいたします。